

# 第 1 章

---

## 令和4年の福島県経済の概況

---

## 第1章 令和4年の福島県経済の概況

### 1 概要

#### 【総合判断】

令和4年(2022年)の福島県経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が残るものの、全体としては緩やかな持ち直しの動きがみられた。

令和4年の福島県の経済を振り返ると、新型コロナウイルス感染症の影響は残るものの、個人消費、民間需要、生産活動、雇用・労働など多くの指標で緩やかな持ち直しの動きが見られた。

個人消費を見ると、百貨店・スーパー販売額、コンビニエンスストア販売額、専門量販店販売額は前年を上回ったものの、乗用車新規登録台数は前年を下回った。

建設需要をみると、業務用建築物着工工事費は前年を上回り、公共工事請負金額及び新設住宅着工戸数は前年を下回った。

生産活動をみると、鉱工業指数(原指数)は改善し、生産指数、出荷指数ともに前年を上回った。

雇用・労働をみると、新規求人倍率や有効求人倍率は前年を上回り、常用雇用指数や所定外労働時間指数も前年を上回った。

### 2 個別指標の国と福島県の比較

令和4年の日本経済は、新型コロナウイルスの感染状況に影響を受けつつも、ウィズコロナの下で消費や設備投資をはじめとした多くの指標において緩やかに持ち直しの動きがみられた。一方で、ロシアのウクライナ侵略による原材料等価格の上昇や円安による輸入物価の上昇は国内物価の上昇を引き起こし、家計や企業の活動に影響を与えた。

このような状況を踏まえ、令和4年における個別指標について福島県と全国の前年比を比較することで、福島県の特徴を確認する。

業務用建築物着工工事費、現金給与総額指数、所定外労働時間指数、消費者物価指数は、全国の上昇幅よりも県の上昇幅が大きかった。また、生産活動の各指標は、全国が下降したのに対して県は上昇した。

一方、百貨店・スーパー販売額、コンビニエンスストア販売額、専門量販店販売額、常用雇用指数、金融機関貸出残高は、全国の上昇幅よりも県の上昇幅が小さかった。

また、新設住宅着工戸数や金融機関預金残高は、全国で上昇していても県では下降しており、乗用車新規登録台数や公共工事請負金額では、全国の下降幅よりも県の下降幅が大きかった。

(図1-2-1、表1-2-1)

図1-2-1 令和4年個別指標の前年比レーダーチャート

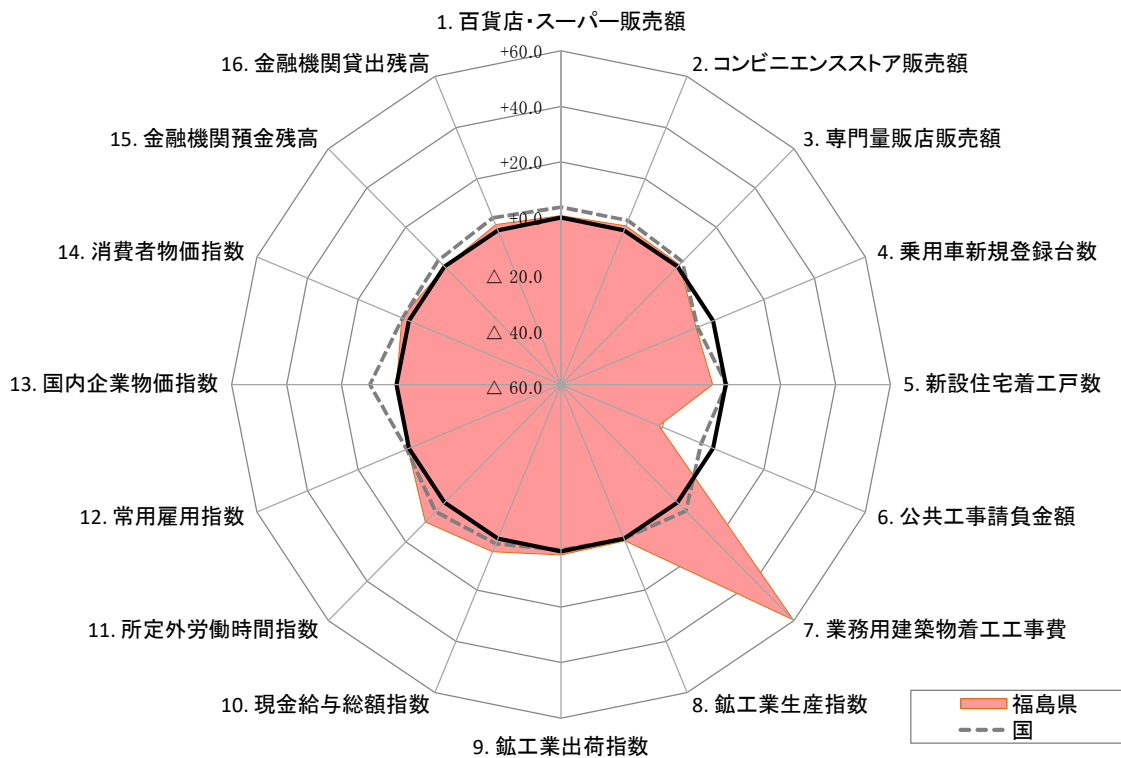


表1-2-1 令和4年個別指標の前年比及び差

個別指標		国 (前年比%)	福島県 (前年比%)	差(県-国) (ポイント)
個人消費	1. 百貨店・スーパー販売額	+3.8	+0.7	△ 3.1
	2. コンビニエンスストア販売額	+3.8	+1.8	△ 2.0
	3. 専門量販店販売額	+2.4	+1.0	△ 1.4
	4. 乗用車新規登録台数	△ 6.2	△ 6.7	△ 0.5
建設需要	5. 新設住宅着工戸数	+0.4	△ 4.7	△ 5.1
	6. 公共工事請負金額	△ 4.7	△ 21.4	△ 16.7
	7. 業務用建築物着工工事費	+4.3	+59.7	+55.4
生産活動	8. 鉱工業生産指数	△ 0.1	+0.9	+1.0
	9. 鉱工業出荷指数	△ 0.5	+1.4	+1.8
労働	10. 現金給与総額指数	+2.0	+5.2	+3.2
	11. 所定外労働時間指数	+4.6	+9.9	+5.3
	12. 常用雇用指数	+0.9	+0.4	△ 0.5
物価	13. 国内企業物価指数	+9.7	-	-
	14. 消費者物価指数	+2.5	+2.7	+0.2
金融	15. 金融機関預金残高	+3.2	△ 0.2	△ 3.4
	16. 金融機関貸出残高	+4.9	+2.2	△ 2.6

※ 国内企業物価指数は国の値のみ、消費者物価指数は福島市の調査結果。  
 ※ 令和4年の各指標の前年比について、景気に対して累進性(増加することで景気が回復しているとみられる)がある指標をレーダーチャートで表した。景気に対して逆進性(増加することで景気が後退しているとみられる)がある指標、前年比ではなく前年差でみる指標などについては、P.6以降を参照。  
 ※ 端数処理のため、差(県-国)の値が一致しないことがあります。

### 3 福島県経済の四半期別の概要

#### 【個人消費】

**百貨店・スーパー販売額**(全店舗ベース)は、第3四半期を除き前年を上回った。

**コンビニエンスストア販売額**は、第1四半期を除き前年を上回った。

**専門量販店販売額**は、第2四半期を除き前年を上回った。

**乗用車新規登録台数**は、第1四半期、第2四半期は前年を下回ったが、第3四半期、第4四半期は前年を上回った。

#### 【建設需要】

**新設住宅着工戸数**は、第1四半期を除き前年を下回った。

**公共工事請負金額**は、第1四半期、第2四半期は前年を下回ったが、第3四半期、第4四半期は前年を上回った。

**業務用建築物着工工事費**は、全期で前年を上回った。

#### 【生産活動】

**鉱工業生産指数(季節調整済指数)**は、第1四半期を除き前年を上回った。

**鉱工業出荷指数(季節調整済指数)**は、第1四半期を除き前年を上回った。

#### 【労働】

**現金給与総額指数**は、全期で前年を上回った。

**所定外労働時間指数**は、全期で前年を上回った。

**常用雇用指数**は、第1四半期を除き前年を上回った。

#### 【物価】

**国内企業物価指数**は、全期で前年を上回った。

**福島市消費者物価指数**は、全期で前年を上回った。

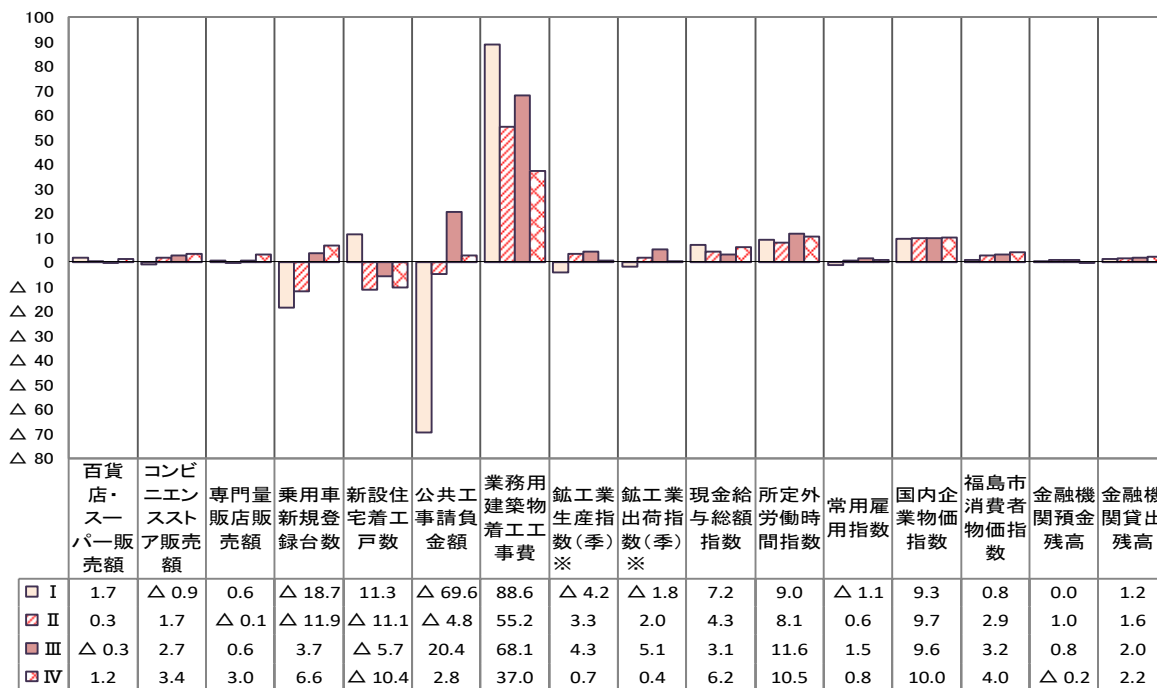
#### 【金融】

**金融機関預金残高**は、第4四半期を除き前年を上回った。

**金融機関貸出残高**は、全期で前年を上回った。

図1-3-1 主要指標毎の前年同期比の推移

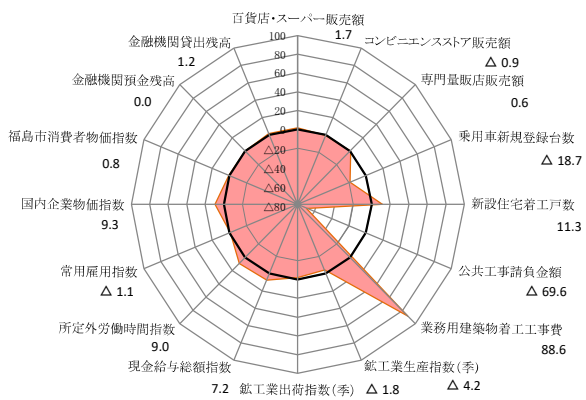
(前年同期比:%)



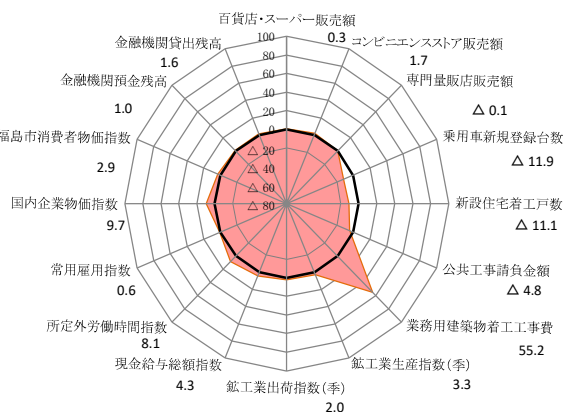
※鉱工業生産指数及び鉱工業出荷指数は前期比。

図1-3-2 主要指標の四半期毎前年同期比のレーダーチャート

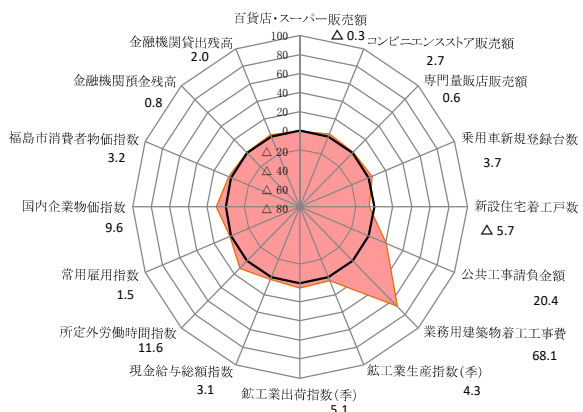
県(第1四半期平均)



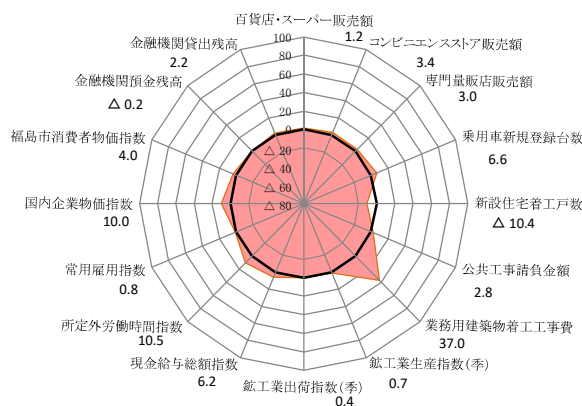
県(第2四半期平均)



県(第3四半期平均)



県(第4四半期平均)

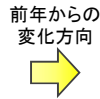


## 4 主要な個別指標の概要

○ 指標名及びグラフのマーカーの色の見方について

- 1 指標名の色について、年値が前年と比較して、改善している指標は緑字、悪化している指標は赤字、同水準である、または個別には判断のつかない指標は灰色で表しています。
- 2 グラフのマーカーの色について、四半期値が前年同期(前期)と比較して、改善している指標は緑色(■)、悪化している指標は赤色(■)、同水準である、または個別には判断のつかない指標は灰色(■)で表しています。「前期」と比較している指標は「鉱工業指数、求人倍率、貸出約定平均金利、日経平均株価、円相場、景気動向指数」
- 3 第1四半期は「1～3月期」、第2四半期は「4～6月期」、第3四半期は「7～9月期」、第4四半期は「10～12月期」です。

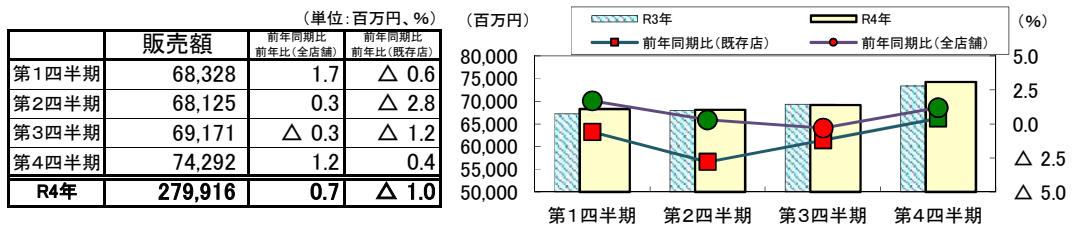
### 個人消費



一部に弱い動きがみられるものの、緩やかな持ち直しの動きがみられた。

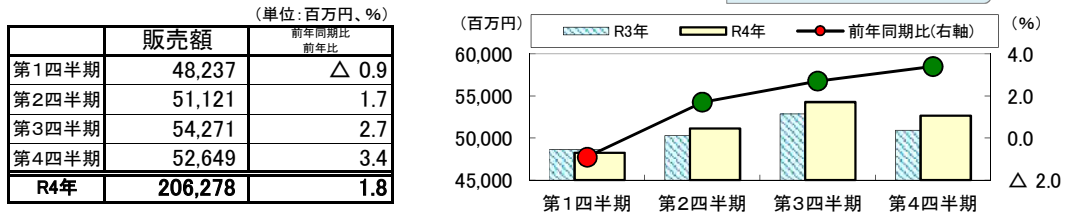
- (1) **百貨店・スーパー販売額**は全店舗ベースで総額2,799億16百万円、前年比0.7%増となり、2年振りに前年を上回った。

【 詳細は P.14に掲載 】



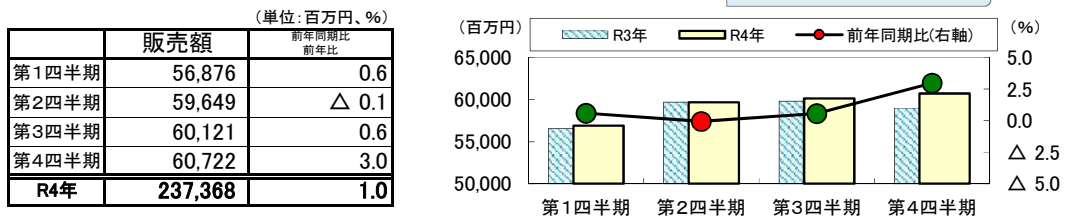
- (2) **コンビニエンスストア販売額**は総額約2,062億78百万円、前年比1.8%増となり、3年振りに前年を上回った。

【 詳細は P.16に掲載 】



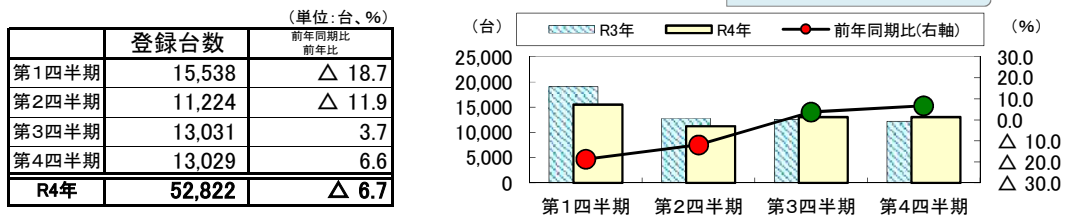
- (3) **専門量販店販売額**は2,373億68百万円、前年比1.0%増となり、8年連続で前年を上回った。

【 詳細は P.16に掲載 】

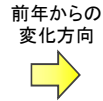


- (4) **乗用車新規登録台数**は52,822台、前年比6.7%減となり、3年連続で前年を下回った。

【 詳細は P.18に掲載 】



建設需要



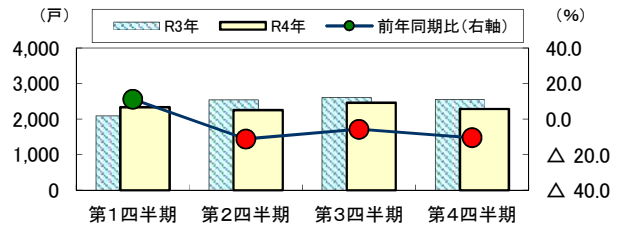
公共工事は、復興事業の進捗などにより弱い動きが続いたものの、民間需要の一部に持ち直しの動きがみられた。

- (1) **新設住宅着工戸数**は9,330戸、前年比4.7%減となり、6年連続で前年を下回った。

【詳細は P.20に掲載】

(単位: 戸、%)

	着工戸数	前年同期比 前年比
第1四半期	2,332	11.3
第2四半期	2,256	△ 11.1
第3四半期	2,458	△ 5.7
第4四半期	2,284	△ 10.4
<b>R4年</b>	<b>9,330</b>	<b>△ 4.7</b>

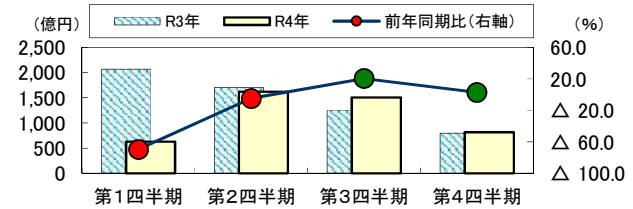


- (2) **公共工事請負金額**は総額約4,572億円、前年比21.4%減となり、2年連続で前年を下回った。

【詳細は P.22に掲載】

(単位: 億円、%)

	請負金額	前年同期比 前年比
第1四半期	628	△ 69.6
第2四半期	1,621	△ 4.8
第3四半期	1,504	20.4
第4四半期	819	2.8
<b>R4年</b>	<b>4,572</b>	<b>△ 21.4</b>

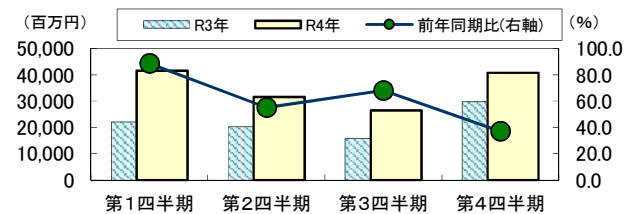


- (3) **業務用建築物着工工事費**は総額約1,402億90百万円、前年比59.7%増となり、2年振りに前年を上回った。

【詳細は P.24に掲載】

(単位: 百万円、%)

	着工工事費	前年同期比 前年比
第1四半期	41,512	88.6
第2四半期	31,551	55.2
第3四半期	26,455	68.1
第4四半期	40,771	37.0
<b>R4年</b>	<b>140,290</b>	<b>59.7</b>





生産活動

前年からの  
変化方向



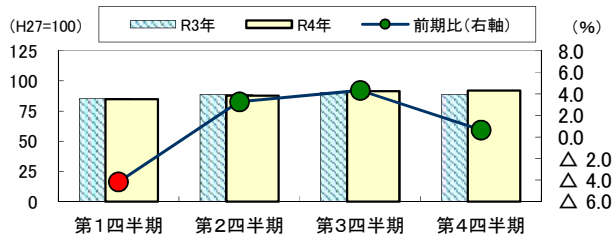
緩やかな持ち直しの動きがみられた。

- (1) 鉱工業生産指数(原指数)は89.1(H27=100)、前年比0.9%増となり、  
2年連続で前年を上回った。

【 詳細は P.26に掲載 】

(単位: H27=100, %)

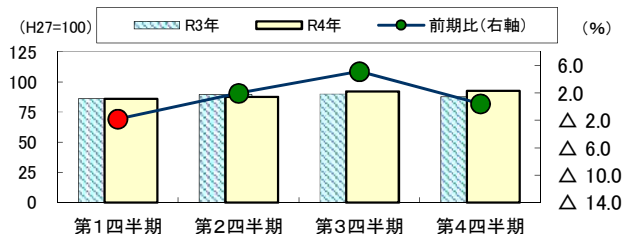
	生産指数	前期比(季節調整値) 前年比(原数値)
第1四半期	85.0	△ 4.2
第2四半期	87.8	3.3
第3四半期	91.6	4.3
第4四半期	92.2	0.7
<b>R4年</b>	<b>89.1</b>	<b>0.9</b>



- (2) 鉱工業出荷指数(原指数)は89.4(H27=100)、前年比1.4%増となり、  
2年連続で前年を上回った。

(単位: H27=100, %)

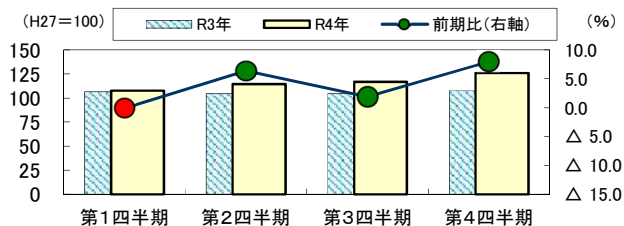
	出荷指数	前期比(季節調整値) 前年比(原数値)
第1四半期	85.9	△ 1.8
第2四半期	87.6	2.0
第3四半期	92.1	5.1
第4四半期	92.5	0.4
<b>R4年</b>	<b>89.4</b>	<b>1.4</b>



- (3) 鉱工業在庫指数(原指数)は116.3(H27=100)、前年比9.9%増となり、  
3年振りに前年を上回った。

(単位: H27=100, %)

	在庫指数	前期比(季節調整値) 前年比(原数値)
第1四半期	107.7	△ 0.1
第2四半期	114.6	6.4
第3四半期	116.8	1.9
第4四半期	126.1	8.0
<b>R4年</b>	<b>116.3</b>	<b>9.9</b>



雇用・労働

前年からの  
変化方向



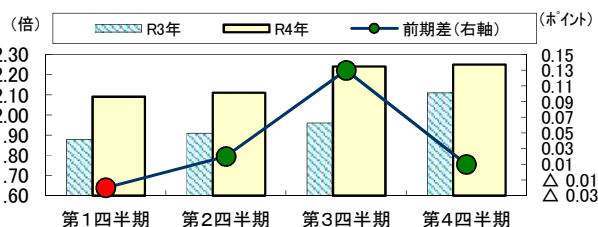
緩やかな改善がみられた。

- (1) 新規求人倍率(原数値)は2.16倍、前年差0.21ポイント上昇し、  
2年連続で前年を上回った。

【 詳細は P.30に掲載 】

(単位: 倍、ポイント)

	倍率	前期差 前年差
第1四半期	2.09	△ 0.02
第2四半期	2.11	0.02
第3四半期	2.24	0.13
第4四半期	2.25	0.01
<b>R4年</b>	<b>2.16</b>	<b>0.21</b>



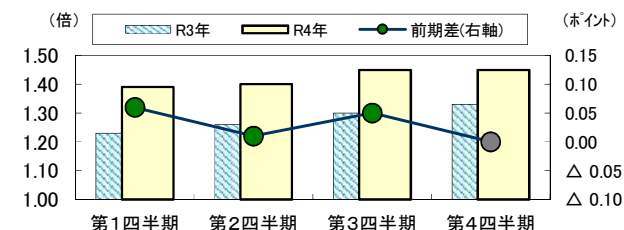


- (2) 有効求人倍率(原数値)は1.42倍、前年差0.14ポイント上昇し、2年連続で前年を上回った。

【 詳細は P.32に掲載 】

(単位:倍、ポイント)

	倍率	前期差 前年差
第1四半期	1.39	0.06
第2四半期	1.40	0.01
第3四半期	1.45	0.05
第4四半期	1.45	0.00
<b>R4年</b>	<b>1.42</b>	<b>0.14</b>

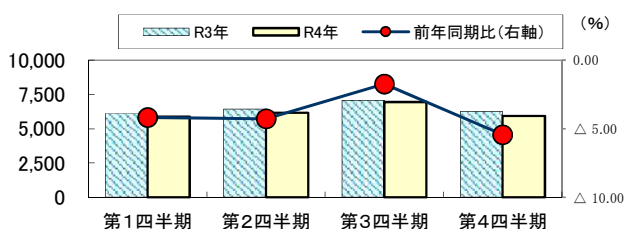


- (3) 雇用保険(基本手当基本分)受給者実人員は年間平均で6,219人、前年比3.8%減となり、2年連続で前年を下回った。

【 詳細は P.34に掲載 】

(単位:人、%)

	受給者実人員	前年同期比 前年比
第1四半期	5,855	△ 4.2
第2四半期	6,154	△ 4.3
第3四半期	6,946	△ 1.7
第4四半期	5,922	△ 5.4
<b>R4年</b>	<b>6,219</b>	<b>△ 3.8</b>

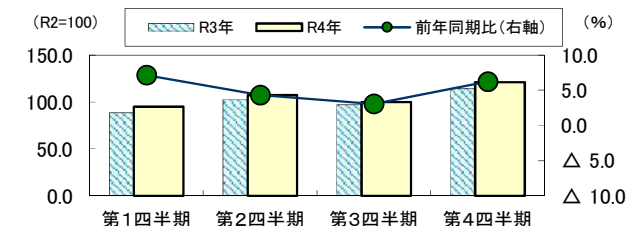


- (4) 現金給与総額指数(事業所規模5人以上)は105.8、前年比5.2%増となり、2年連続で前年を上回った。

【 詳細は P.36に掲載 】

(単位:R2=100、%)

	指数	前年同期比 前年比
第1四半期	94.9	7.2
第2四半期	107.2	4.3
第3四半期	100.0	3.1
第4四半期	121.1	6.2
<b>R4年</b>	<b>105.8</b>	<b>5.2</b>

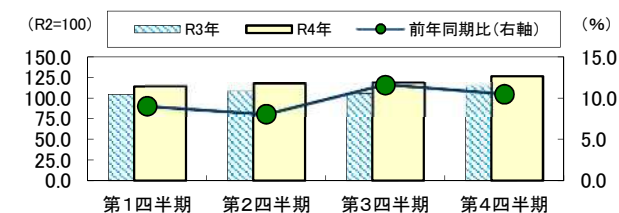


- (5) 所定外労働時間指数(事業所規模5人以上)は119.2、前年比9.9%増となり、2年連続で前年を上回った。

【 詳細は P.36に掲載 】

(単位:R2=100、%)

	指数	前年同期比 前年比
第1四半期	114.2	9.0
第2四半期	117.4	8.1
第3四半期	118.4	11.6
第4四半期	126.6	10.5
<b>R4年</b>	<b>119.2</b>	<b>9.9</b>

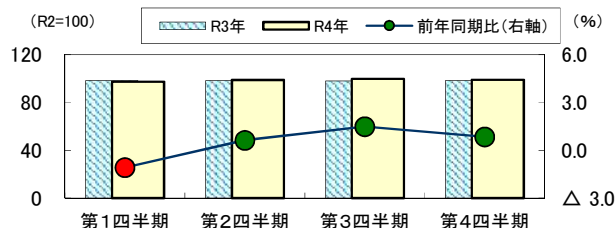


- (6) 常用雇用指数(事業所規模5人以上)は98.8、前年比0.4%増となり、2年振りに前年を上回った。

【 詳細は P.38に掲載 】

(単位:R2=100、%)

	指数	前年同期比 前年比
第1四半期	97.5	△ 1.1
第2四半期	98.9	0.6
第3四半期	99.7	1.5
第4四半期	99.2	0.8
<b>R4年</b>	<b>98.8</b>	<b>0.4</b>



前年からの  
変化方向

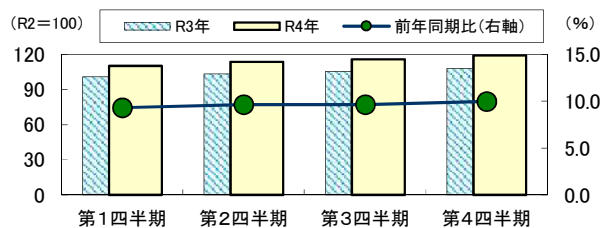
企業物価指数及び消費者物価指数はともに上昇した。

- (1) **国内企業物価指数(総平均)**は114.7、前年比9.7%増となり、  
2年連続で前年を上回った。

【 詳細は P.40に掲載 】

(単位:R2=100、%)

	指数	前年同期比 前年比
第1四半期	110.4	9.3
第2四半期	113.6	9.7
第3四半期	115.9	9.6
第4四半期	119.0	10.0
<b>R4年</b>	<b>114.7</b>	<b>9.7</b>

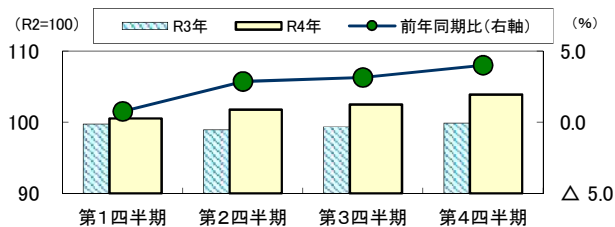


- (2) **福島市消費者物価指数(総合)**は102.2、前年比2.7%増となり、  
2年振りに前年を上回った。

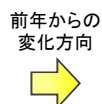
【 詳細は P.42に掲載 】

(単位:R2=100、%)

	指数	前年同期比 前年比
第1四半期	100.5	0.8
第2四半期	101.8	2.9
第3四半期	102.5	3.2
第4四半期	103.9	4.0
<b>R4年</b>	<b>102.2</b>	<b>2.7</b>



## 企業・金融



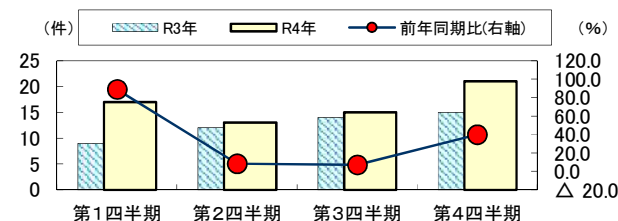
企業倒産の件数及び負債総額はともに前年を上回った。  
預金残高は前年を下回り、貸出残高は前年を上回った。

- (1) **企業倒産件数**は66件、前年比32.0%増となり、  
4年振りに前年を上回った。

【 詳細は P.44に掲載 】

(単位:件、%)

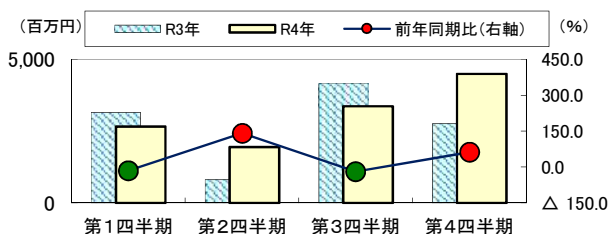
	件数	前年同期比 前年比
第1四半期	17	88.9
第2四半期	13	8.3
第3四半期	15	7.1
第4四半期	21	40.0
<b>R4年</b>	<b>66</b>	<b>32.0</b>



- 企業倒産負債総額**は124億83百万円、前年比14.7%増となり、  
2年連続で前年を上回った。

(単位:百万円、%)

	負債総額	前年同期比 前年比
第1四半期	2,662	△ 15.6
第2四半期	1,950	141.3
第3四半期	3,373	△ 18.9
第4四半期	4,498	62.9
<b>R4年</b>	<b>12,483</b>	<b>14.7</b>

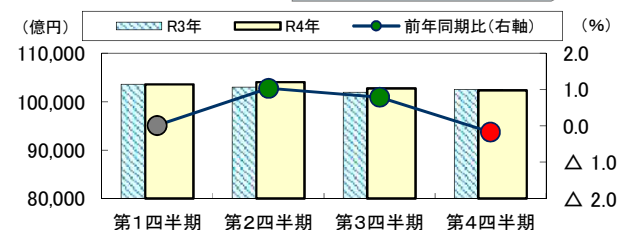


- (2) **金融機関預金残高**は総額10兆2,381億円、前年比0.2%減となり、  
4年振りに前年を下回った。

【 詳細は P.48に掲載 】

(単位:億円、%)

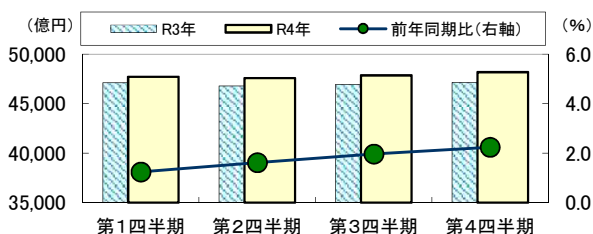
	預金残高	前年同期比 前年比
第1四半期	103,616	0.0
第2四半期	104,048	1.0
第3四半期	102,759	0.8
第4四半期	102,381	△ 0.2
<b>R4年</b>	<b>102,381</b>	<b>△ 0.2</b>



- 金融機関貸出残高**は総額4兆8,178億円、前年比2.2%増となり、  
12年連続で前年を上回った。

(単位:億円、%)

	貸出残高	前年同期比 前年比
第1四半期	47,701	1.2
第2四半期	47,561	1.6
第3四半期	47,861	2.0
第4四半期	48,178	2.2
<b>R4年</b>	<b>48,178</b>	<b>2.2</b>

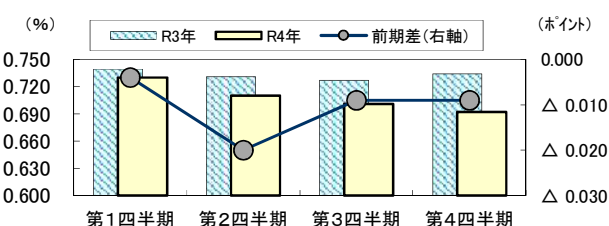


- (3) **貸出約定平均金利**は地方銀行で0.692%、  
前年差0.042ポイント下降となった。

【 詳細は P.50に掲載 】

(単位:%、ポイント)

	金利	前年差 前年差
第1四半期	0.730	△ 0.004
第2四半期	0.710	△ 0.020
第3四半期	0.701	△ 0.009
第4四半期	0.692	△ 0.009
<b>R4年</b>	<b>0.692</b>	<b>△ 0.042</b>



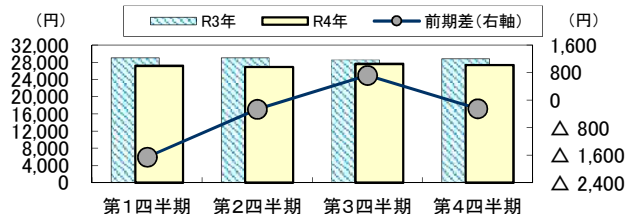
市場

株価は下降し、円相場は円安となった。

- (1) 日経平均株価(225種、期中平均値)は27,256円91銭、  
前年差1,579円49銭安となり、3年振りに前年を下回った。

【 詳細は P.52に掲載 】

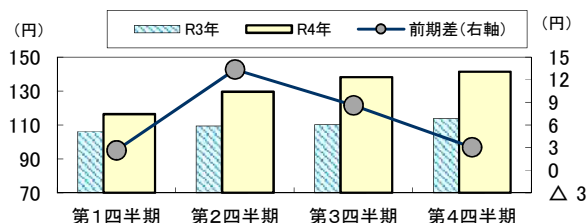
(単位:円)		
	株価	前期差 前年差
第1四半期	27,156.32	△ 1,653.76
第2四半期	26,893.81	△ 262.51
第3四半期	27,610.50	716.69
第4四半期	27,362.16	△ 248.35
<b>R4年</b>	<b>27,256.91</b>	<b>△ 1,579.49</b>



- (2) 東京外国為替市場の円相場(対米ドル、期中平均値)は131円56銭、  
前年差21円67銭安となり、2年連続で円安となった。

【 詳細は P.52に掲載 】

(単位:円)		
	円相場	前期差 前年差
第1四半期	116.32	2.62
第2四半期	129.66	13.34
第3四半期	138.24	8.58
第4四半期	141.29	3.05
<b>R4年</b>	<b>131.56</b>	<b>21.67</b>



景気動向指数

上昇基調で推移した。

- (1) 福島県景気動向指数(CI一致指数)は上昇した。

【 詳細は P.54に掲載 】

(単位:ポイント)		
	CI一致指数	前期差 前年差
第1四半期	72.1	1.2
第2四半期	75.9	3.8
第3四半期	81.3	5.4
第4四半期	82.2	0.9
<b>R4年</b>	<b>82.2</b>	<b>11.3</b>

(四半期値及び年値は期末値)

